

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年九月度 入選句（投稿総数二千四百二十三句・一般投句数六百十句）

特選

きのふにはなき風のおと秋立ちぬ

岐阜市

花川 和久

今年の立秋は、八月七日であつた。暦の上の「立秋」だけでも、秋を感じたい今年の暑さ。「立秋をむかえ、昨日の風とはどこか違った風の音がする。」確かに、今年の立秋の朝は、すこし爽やかな風が吹いた。「きのふにはなき」の措辞がよい。

妣の部屋今宵も密と月入りて

大垣市

松岡 みつ

「妣」は、今は亡き母をいう。「母の部屋を覗いてみると、今夜も月の光が入っている。」妣は、自分のこの部屋から、いつも月を眺めていたのだらう。

「密（ひそ）と月入りて」によつて、月を自分の部屋に密かに呼び込んで楽しんでいた母への思い出が、ふつふつと蘇ってくるのである。

きつちりと締むるネクタイ秋立ちぬ

愛知県名古屋市

館野 茂子

大変暑かった夏を終え、暦の上での「立秋」。今日からは「秋」という、暦だけではなく気持ちの切り替えがよく伝わってくる。「きつちりと締めたネクタイ」は、いままでの「開襟」や「ノーネクタイ」とは全く違つて、その姿から「やる気」がうかがえる。「秋立つ」の季語が、生きている句である。

秀逸

ゆで卵つるりと剥けて今朝の秋

海津市

横井 美圭

焦げすぎの一尾のサンマ夫の膳

大垣市

佐久間 美佐子

皆よりて考の思い出夏座敷

大垣市

矢代 由美子

はらからの里の訛りや赤まんま

岐阜市

村瀬 慶祐

西を向く嫉妬したのかひまわりや

岐阜市

川井 康夫

素風かな尸史つづりし化石館

大垣市

坪井 克枝

節くれの指先秋津来ととまる

大垣市

岡田 あや子

忘れたきことのいろいろ髪洗う

大阪府大阪市

片山 法男

傘寿とて行く手は長し大根蒔く

大垣市

村田 通夫

髪洗ふけふの穢れを梳き流し

岐阜市

堀江 美州

入選

まだ卒寿と打ち笑ひをり生身魂	養老郡養老町	田中	紫香
蔀戸にある歲月や茶屋の秋	養老郡養老町	田中	秀草
墓洗うあの後のこと話しつつ	大垣市	佐竹	露子
打ち水に宵の風立つソバ処	大垣市	仁村	光生
しなやかに墓石に止まる糸蜻蛉	大垣市	佐竹	余史美
輪郭は光なりけり夏少女	大垣市	遠藤	加容子
秋時雨そぞろ歩くもまた楽し	多治見市	安藤	るり子
嵐果つひとしほ集く虫の夜	岐阜市	堀江	美州
一匹の秋の蠅追いひとり芸	大垣市	高津	喜久子
みみず鳴く生命線は二股に	大垣市	月山	陽子

入選

朝涼のラジオ体操津軽弁	岐阜市	伊藤	瑞実
孫悟空現れそうな雲の峰	愛知県額田郡	平松	京師
風と来て田面に群るる秋茜	大垣市	田中	雅子
深々と更けゆく小夜の星涼し	大垣市	中村	有紀
咲きつぎて日毎こぼるる夕化粧	不破郡垂井町	竹嶋	富美子
虫鳴くや謂れの寺に隠し部屋	兵庫県神戸市	岸下	庄二
すれ違ひざまに涼しき京言葉	愛知県豊田市	城山	憲三
迎火や遠くにかやぶき屋根の家	大垣市	平野	ヒサエ
妻でなく母でもなくてサンガラス	大垣市	片山	洋紅
君のため焚く迎え火の悲しさよ	大阪府羽曳野市	河内のまさやん	

選者吟

長き夜に古き映画の美男美女

永山